

(様式2)

## 指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:平成29年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	観光部山岳高原観光課
指定管理者	長野県山岳協会

### 1 施設名等

施設名	長野県山岳総合センター	住所 電話 ホームページ	大町市大字大町8056-1 0261-22-2773 <a href="http://www.sangakusogocenter.com/">http://www.sangakusogocenter.com/</a>
-----	-------------	--------------------	--

### 2 施設の概要

設置年月	昭和44年5月	根拠条例等	長野県山岳総合センター条例
設置目的	山岳に関する研究及び調査、安全な登山に関する知識及び技能の普及啓発その他の山岳における野外活動に関する教育事業、山岳における野外活動に関する普及事業を行う。		
施設内容	教室・講堂及び体験室 宿泊設備 7人部屋(2段ベッド)7室 食堂、浴室		
利用料金	施設利用料:占有する場合2,700円/3時間、占有しない場合100円/3時間 宿泊料:大人900円、子ども450円		
開所日	閉館日(月曜日、祝日の翌日、年末年始)		
開所時間	9:00～20:00		

### 3 現指定管理者前の管理運営状況

期間	管理形態	管理受託者又は指定管理者等
平成24年度～平成26年度	指定管理	長野県山岳協会・やまたみ

### 4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	長野県山岳協会	指定期間	平成27年4月1日～平成32年3月31日(5年間)
選定方法	公募(応募者数:1)		

### 5 指定管理料(決算ベース)

平成29年度(A)	平成28年度(B)	差(A)-(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
26,100 千円	26,100 千円	0 千円	
	増減理由	増減なし	

### 6 指定管理者が行う業務

<ul style="list-style-type: none"><li>施設及び設備の維持管理に関する業務</li><li>施設の利用の許可及び利用料金に関する業務</li><li>山岳に関する研究及び調査並びに山岳における野外活動に関する教育事業及び普及事業の企画及び実施に関する業務</li><li>上記業務に付帯する業務</li></ul>
---

### 7 利用実績等

#### (1) 利用実績【指標:利用者数】

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成29年度(A)	791	741	779	700	629	803	833	762	309	458	391	515	7,711
平成28年度(B)	801	828	1,012	746	527	847	886	883	388	614	613	545	8,690
(A)/(B)	98.8	89.5	77.0	93.8	119.4	94.8	94.0	86.3	79.6	74.6	63.8	94.5	88.7
増減要因等	宿泊・研修利用者は増、ボルダリング壁・人工岩場利用者は減で、トータルの利用者数は1割の減となった。前年度と比較すると、ボルダリング壁・人工岩場の利用減は利用回数の多い”常連”的な人の利用が減ったことが直接的な要因であるが、ここ数年減少が続いているのは、他と比較して施設が古くなっていることも遠因と考えられる												

#### (2) 利用料金収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成29年度(A)	127	73	111	112	145	104	113	83	67	53	66	88	1,140
平成28年度(B)	153	60	123	99	78	79	85	108	82	114	180	82	1,243
(A)/(B)	83.0	121.3	90.0	113.4	185.3	131.6	132.4	76.8	81.3	46.2	36.5	107.4	91.7
増減要因等	主催事業は例年通りの回数を行ったが、受講者の安全性を確保し、また、理解度を上げるため募集定員を減らしたことにより利用料が減った												

#### (3) 利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
有・ <input checked="" type="radio"/> 無	

(様式2)

(4)開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
平成29年度(A):290日 平成28年度(B):290日	平成28年度(A):9:00~20:00 平成27年度(B):9:00~20:00	有・ <b>無</b>	

(5)サービス向上のため実施した内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>人工岩場・ボルダリング壁の定期点検を行い、いつも安全に使える状態を維持した</li> <li>ボルダリング壁のある体験室は、毎日清掃して、気持ちよく使える環境を維持する体制を作った</li> </ul>
--

(6)その他実施した取組内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>消耗の激しいクライミングロープ類、クライミングシューズなどを更新した</li> </ul>
--

(7)利用者の主な声及びその対応状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者からは施設を安価に利用できてよいという声と、施設・設備の老朽化について対策を願う声の両方がある</li> <li>一般登山者に対する登山講習は、初級から中級まで幅広くやっていて、実践的・丁寧・安価と概ね好評であるが、中級以上の拡充を望む声がある</li> </ul>
---

## 8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入)

項目	指定管理者	所管課	評価
施設の目的に沿った管理運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全登山と野外活動の講習会を開催した</li> <li>山岳に関する研究及び調査として、中学校集団登山について県内全ての公立中学校での実施状況調査を行った</li> <li>東京で行われた中央日本四県の連携による「グレーディング活用セミナー」に参画した。</li> <li>栃木県・那須の雪崩事故をうけて行われた「高校生の冬山・春山登山における安全確保指針検討委員会」に委員として参加した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協定書、仕様書及び事業計画書に基づき適切な施設管理を実施したと認められる。</li> <li>習熟度別や目的別など幅広い層に向けて、知識や技術の普及に向けた講座を開設(年58回)するなど、設置目的に沿った運営が行われたと認められる。</li> </ul>	A
平等な利用の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の定員、安全限度内の人数で、希望者には原則先着順で利用してもらった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平等な利用が確保できたと認められる。</li> </ul>	B
利用者サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者や講習参加者にアンケート調査を実施してニーズをつかみ、運営の改善につなげるように努めた</li> <li>館内を定期的に清掃し、気持ちよく使える環境を維持するよう努めた</li> <li>主催講習で、早朝の弁当は食べにくい人がいたので、おにぎりや果物などの組み合わせとして参加者が量や食べるタイミングを調整できるようにした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設利用者からの要望を施設運営に取り入れ、施設を最適な状態で提供することにより、利用者の立場に立ったサービス向上の取組ができたことと認められる。</li> </ul>	A
自主事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>野外活動系講習を8回、安全登山系講習を50回開催し、延べ936人が参加した</li> <li>富山県・県環境部と一緒に、ライチョウサポーターを対象とした研修を行った</li> <li>「登山体力セルフチェック」は、長野県山岳協会の2支部の夏山登山教室でも行われた他、「山のグレーディング」と共に山岳雑誌や日本勤労者山岳連盟の会報にも取り上げられるなど広がりがみられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な登山に関する知識及び技能の普及・啓発、野外活動に関する教育のため、習熟度別や目的別など幅広い層に向けた講座を開設できた。</li> <li>「信州 山のグレーディング」を活用した「登山体力セルフチェック」の普及に向け、積極的なPRが行われた。</li> </ul>	A
職員・管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に所長が交代し、運営の連続性を図るため、前所長がアドバイザーとなり助言を行う体制を取った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕様書及び事業計画書に基づき適正な職員配置が行われ、円滑な管理運営体制がとられたと認められる。</li> </ul>	B
収支状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>主催事業は募集定員を減らしたこともあり参加者数は減ったが、経費節減に努めて収支は前年度とほぼ同じであった。最終的に税前当期利益1,020千円を確保することができた 収入:39,522千円 支出:38,502千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経費削減に努め、効率的な運営が行われていると認められる。</li> </ul>	B
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用事業、主催事業、調査研究は、それぞれ事故やトラブルなどなく計画通り実施できた</li> <li>大町市山岳博物館と連携した講習会を開催したり、地元中学校から体験学習を受け入れたり、地元のイベントに参画したりし、地元との結びつきが強まった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協定書や仕様書等に基づき、適切で効率的な管理運営を行うとともに、安全管理の強化にも積極的に取り組んでいる。</li> <li>山岳における遭難の防止に役立てるため、幅広い層への講座の開設や登山体力セルフチェックの普及に向けた取組など創意工夫が認められる。</li> <li>地元中学校の体験学習の受入など地域とのつながりを大切にしたい取組も評価できる。</li> </ul>	B

<評価区分> A:仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。  
 B:おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。  
 C:仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。  
 D:仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

## 9 施設管理運営の課題

項目	指定管理者	所管課
施設の管理運営の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年に耐震工事、平成28年にはボイラー・暖房施設の一部更新が行われ、通常の使用に支障はないが、建物内装・電気設備、人工岩場など老朽化が進んでおり、長期的には利用者減につながる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本施設は、登山者への安全登山の普及啓発や山岳に関する情報発信に重要な役割を担っている。</li> <li>昭和44年に建設され、施設や施設内の設備の老朽化が進んでいることから、緊急性を勘案した計画的な修繕に努めている。</li> </ul>